

Um, I think the biggest challenge in a company of this sort is finding: The cultures may be different and the people might be a little bit different, but they're just different.

こういう会社での最大の課題は、「文化はいろいろと違うだろうし、人々も少し違うかもしれない。でも、それはただ「違っている」というだけのことだ」ということに気づくことだと思いますね。

I think the biggest challenge in a company of this sort is finding

こういう会社での最大の課題は、次のようなことに気づくことだと思います。

やまと言葉 sort は「種類、タイプ」のことです。a company of this sort で「このようなタイプの会社 　　こういう会社」という意味になります。

ロジック ここは、the biggest challengeis finding と言って文を途中で止めて言い捨てたかたちになっています。トピックのように、「大きな課題は...次のようなことに気づくことだと思います」と処理して、次を聞き進みましょう。

The cultures may the people might ... , but

ロジック 直前の文で「次のようなことに気づくことだと思います」と言って、すぐに「気づく内容」が来てくれると聞き取りやすかったのですが、一度脱線して「確かに・・・かもしれない」という挿入が入りました。特に「旗印」表現が入ることなく「挿入」に転じていますが、助動詞が聞き取りのヒントになります。別の可能性や側面を、The culture may ... , the people might ...のように may や might などの助動詞によって「～かもしれない」という言い切らない言い方で説明する内容が来た場合は、「挿入」の可能性あります。「挿入」の場合は、But などで必ず本線(メインポイント)に戻ってくれるはずですから、ここもその可能性を頭において聞きながら、but を待ちましょう。

No one is better than the other one and each has the opportunity to learn something. It might be not always a positive learning experience but it's an opportunity to learn.

「どちらが上」だということはお互いにないわけですし、それぞれが何かしら学べるところがあるので、必ずしもいつもプラスの学びばかりではないかもしれませんが、でもやはり、学べる機会なのです。

No ~ is ... than the other ~

パターン構文 「誰も(何も)他の～より...ではない」という意味の構文ですが、要は、「みんな同じである」ことを言うときに使われる構文です。

It might be not always ..., but

ロジック 「確かに、いつも...というわけではないかもしれないけど、でも...」と脱線して「挿入」が入り、but で戻るかたちです。ここも先述の通り、助動詞 might が、「挿入」が入った可能性をつかむヒントになります。

また、この箱の英文全体で、メインポイントを詳しく説明してくれるサポートになっています。メインポイントの「色々」と違う“だろうけど、それはただ”違っている“だけだ”という部分だけではピンと来なかった場合も、論旨を追って聞く意識があれば、次に来るであろうサポートを頼りに意味を推測することが可能になります。just different ということが、要は「優劣の問題ではなく、お互いに学び合えるような”違い”の問題だ」ということを言っていることが、このサポート部分を聞くことで分かります。

And if everyone could come in with that thought in mind, because we've learned so many more efficient ways of operating, I believe, in this company compared to my former company that makes things much easier, to operate and work more smoothly and more efficiently. I'm very happy with that. But there's also opportunity from the American side to learn about what goes on here and how we operate.

そして、もし皆がそういった心構えで働きにくることができればいいですね。というのも、前の会社に比べて、この会社で私たちは本当にたくさんのより効率的な仕事の仕方を学べたと私自身は強く思っていますから。もっとスムーズに、効率的に仕事を回していく上で、ずっと物事がやり易くなるようなやり方ですね。私自身はとて、このことを嬉しく思っていますね。でも同時に、アメリカ側からもこちらでのものごとの仕組みや仕事の仕方について学ぶ機会がありますよ。

if everyone could come in with that thought in mind

皆がそういう心構えで働きにくることができればいいですね

慣用表現 to come in は「入って来る」ですが、どこに「入る」のかは話のコンテキストから判断する必要があります。ここは、入る先は「会社」、「職場」、「働いている環境」などですから、「働きにくる」という感じになります。

パターン構文 「もし皆がそのような考え方を頭において働きにくることができるのなら・・・」と if による条件節だけで言い捨てているようなかたちで、よく使われる話し方です。メッセージとしては、「そうだとよいのに」というメッセージになります。

more efficient ways...much easier.... more smoothly and more efficiently

ロジック 自分達が日本側から学んだことを具体的に説明してくれている部分ですが、比較級を使った言い方で「本当にプラスだったんだ」ということを売っています。このように、英語であることの利点を売るときは、比較級を使ってそれがあることの利点をしっかりと売る言い方をします。で、「ずっと効率的なやり方」、「ずっと簡単に」、「ずっとスムーズに、ずっと効率的に」・・・のように比較級が飛んできたら、前に述べたことを利点で説得してくれている可能性が高いですから、そのメッセージをしっかりと押さえて聞き進みましょう。

that makes things much easier to...

パターン表現 that による修飾節で、前に述べた名詞をもっと詳しく説明する言い方ですが、ここは、その「名詞」と「修飾節」が少し離れたかたちになっています。that makes things much easier to...以下は、efficient ways of operating の ways を説明しています。また、things であいまいな感じに make の目的語を置いています。このように、「いろいろなこと」、「ものごと」、「状況」のような意味で、あいまいに言う things はよく出てきますので慣れておきましょう。to make things easier で「ものごとを簡単にする」というよく使われる言い方です。

but ... also ...

ロジック ここで、米国人側(自分側)の話から、日本人側の話に移っています。前の自分側の話では、自分達が日本側から学んだことを具体的な経験談として説明し、「本当にプラスになるんだ」ということを売ってくれました。日本人側のことは「(米国人側から学ぶと) プラスになるんだ!」と言い切る訳にもいかないので、「でも、同じように、米国人の側から学ぶ機会もある」と非常に客観的な言い方で置いています。

what goes on here and how we operate. ものごとの仕組みや仕事の仕方

パターン表現 おなじみの疑問詞節の名詞の「かたまり」です。「what goes on here こちら(米国側)で起こること」と現在形になっていますので、「こちらで普通(一般的に)起こること」「こちら側のものごとの仕組み」のような意味になります。「how we operate どう私たち(米国側)が仕事をするか、そのやり方」ということですから、「(米国側の)仕事の仕方」という意味になります。

So, as we have been saying different is just different: It's not bad, it's just different. And so, that's the key.

ですから、先ほども述べたように、'違う'というのは、単に'違う'というだけのことなんです。'悪い'というのではなく、'違う'というだけのことです。で、これがカギだと思いますね。

So, ...different is just different. It's not bad, it's just different

□ジック

So, でメインポイントをまとめてくれています。その後ろで、「悪い」というのではなく“違う”というだけのことなんです」と、“just different” の意味をもう一度詳しく言い換えてくれる説明が一言入りました。

that's the key それがかぎなんです

□ジック

前に述べたことを that で「で、これが…」と受けて重み付けをする、英語らしい典型的なサポートがきています。「これが、カギを握るほど重要なんですよ」という感じです。